

イライラを主訴とする神経症（中間～実証） 15例に対する黄連解毒湯の効果

那須高原病院（栃木県） 篠崎 徹

イライラを主訴とする神経症（中間～実証）15例（女性7例、男性8例、平均年齢40.2歳）に対する黄連解毒湯の効果を検討した。患者診療による症状変化により、自覚症状が軽快（有効）または消失（著効）したものの有効率は60.0%であった。副作用は認めなかった。不安、不眠、うつ状態なども伴った神経症のイライラに対しては向精神薬だけではコントロールすることは難しく副作用の問題もある。漢方療法は「証」を十分に検討すれば副作用の問題もなく、安全で有用であり、神経症患者のQOLの向上をもたらすものである。

Keywords 神経症、黄連解毒湯、イライラ、QOL

はじめに

現代のストレス社会においては、神経が高ぶり、短気で怒りっぽい、イライラして落ちつきのない患者に遭遇することが少なくない。ほとんどが不安、不眠、うつ状態などを伴った神経症患者であるが、イライラに対しては向精神薬だけではコントロールすることが難しい。眠気やふらつきなどの副作用の問題もある。筆者はイライラを主症状とする神経症（虚証）に対する抑肝散加陳皮半夏の有効性についてはすでに報告した¹⁾。今回は、イライラを主症状とする神経症（中間～実証）に対する黄連解毒湯の効果を検討した。

対象と方法

2012年1月から6月までの半年間で、当院における神経症で主にイライラを主訴とする15例を対象とした。年齢は21～66歳（平均40.2歳）、性別は女性7例、男性8例であった。漢方医学的所見は全例が「中間～実証」と考えられた。対象者には漢方療法の副作用と安全性などの説明を十分にを行い、同意を得られたものだけに漢方療法を開始した。

使用薬剤と投与方法

クラシエ黄連解毒湯エキス細粒（医療用）6.0g/日（分2）を食前に投与した。

併用薬

西洋薬（特に向精神薬）で従来から服用しているものはそのまま継続した。漢方方剤としては黄連解毒湯の単独投与とした。

投与期間

最低2週間投与し、経過観察は4週間以上から半年間行なった。

効果判定

1～2週間毎に患者診察を行い、症状の変化を問診した。自覚症状の消失、軽快、不変によって、それぞれ著効、有効、無効とした。

副作用

各診察日に黄連解毒湯によると思われる副作用の有無をチェックした。

結果

神経症のイライラに対する黄連解毒湯の効果は、表のように15例中3例で著効（完全消失）、6例で有効（改善）であり、無効は6例であった。したがって有効率は60.0%であった。著効例における症状消失までの期間は14～28日であった。著効例、有効例では再発はなかった。全例で特に副作用は認めなかった。著効例、有効例は赤ら顔で不安、不眠を基本とするものが多かった。なお、イライラしてケンカの絶えない夫婦（症例9、10）に有効であり家庭平和となった。無効例は、イライラ以外に身体的訴えを中心とするもの、性格的に未熟で神経質傾向の強いもの、治療経過の長いものが多かった。

症 例

症例4

24歳、男性、イライラ、不眠、アトピー性皮膚炎を持つ実証型タイプで普段からイライラして眠れなかった。顔の赤みは全体にあり夜間は痒みのために睡眠も不十分であった。当初、睡眠薬、抗ヒスタミン薬等が投与されるも無効。そこで黄連解毒湯6.0g/日 分2投与を開始した。2週間ほどでイライラが減少し4週間で睡眠もとれ、顔の赤みも減少。6週間で顔の赤み、痒み、イライラがほぼ消失した。

症例5

55歳、男性、30歳ごろから不眠症気味であった。日中イライラして仕事にも身が入らず、休みがちであった。近医でさまざまな睡眠薬、抗不安薬を投与されたが改善せず、しだいに用量が増えふらふらすることもあった。それでも毎日服用せずにはいられないという薬物依存の状態であった。当科へは血圧が高めで、内科を受診したついでに受診したという。体格はがっしり型で実証、不眠とイライラを強く訴えた。うつ病を示唆するような抑うつ気分、日内変動などは認めなかった。頭部CT、血液生化学検査など器質的には異常を認めなかった。イライラを中心とした神経症の症状が目立っていたために黄連解毒湯6.0g/日 分2投与を開始した。2週間後には、イライラも少し軽減し、入眠がスムーズとなった。4週間後にはさらにイライラが減り、熟睡感が得られるようになった。

考 察

神経症に相当する概念を、心身一如の東洋医学においては、気は乱れるが五臓の失調に至らない「傷気分」、五臓の失調状態を招来する「五臓不安」、さらに五臓そのものが障害され五臓の有する五神がおかされる「傷臓」として捉えている²⁾。神経症性のイライラは神経症性パーソナリティーを持ち、対人葛藤の解消が不十分な場合出現する。

黄連解毒湯は黄連1.5g、黄芩3g、黄柏1.5g、山梔子2gから構成され、イライラ・怒りっぽい・目の充血・のぼせ・不眠・多夢・不安などの脳の興奮症状(心肝火旺)に対して有用である。黄連解毒湯は比較的体力があり、のぼせ気味で顔色赤く、イライラする傾向のある不眠症、めまい、赤ら顔、炎症性皮膚疾患(発赤・熱感の強いもの)、アトピー性皮膚炎に用いる。

筆者は普段から神経が高ぶり、短気で怒りっぽい、イライラして落ちつきのない神経症に対して抑肝散加陳皮半夏を用いて有効率56.7%とすでに報告した¹⁾。そこで、今回、

表 症例一覧

症例	年齢(歳)	性別	イライラ以外の症状	効果	併用薬
1	33	男性	不眠・不安	有効	プロマゼパム、プロチゾラム
2	43	女性	不眠・抑うつ	無効	(-)
3	52	女性	不安・頭痛	有効	エチゾラム
4	24	男性	不眠・抑うつ	有効	プロチゾラム、エチゾラム
5	55	男性	不安・心氣的・高血圧	有効	エチゾラム
6	42	女性	不安・抑うつ	無効	エチゾラム
7	23	男性	不眠・アトピー性皮膚炎	有効	プロマゼパム
8	37	女性	不安・心氣的	無効	エチゾラム
9*	52	男性	不眠・妻への葛藤	有効	(-)
10*	49	女性	不眠・夫への葛藤	有効	(-)
11	39	女性	不眠・心氣的	無効	プロチゾラム
12	26	男性	不眠・アトピー性皮膚炎	有効	エチゾラム
13	41	男性	不眠・不安	無効	(-)
14	66	女性	不眠・心氣的	無効	(-)
15	21	男性	不眠・アトピー性皮膚炎	有効	プロマゼパム

*症例9、10は夫婦

イライラを主訴とし不安、不眠などを伴った中間～実証の神経症に対する黄連解毒湯の効果を検討した。本研究では15例中9例が有効以上であり、有効率は60.0%であった。通常、イライラを主訴とする神経症に向精神薬や精神療法を用いた臨床成績と比較しても遜色ない。

ベンゾジアゼピン系薬物をはじめとする向精神薬には、依存性の問題、中枢抑制作用や筋弛緩作用からくる運動機能や作業能力の低下の問題がある。その点、漢方薬による副作用の問題はほとんどないといってよい。今回は黄連解毒湯を用いたが全例において副作用は出現しなかった。「証」を十分に検討する必要があるが、黄連解毒湯を今後同様のケースに使ってみるのも有意義であると思われる。

最後に、黄連解毒湯エキスの顆粒剤や細粒剤は味覚の点から服用しにくいようであるが、錠剤であれば、アドヒアランスも良好になると考えられる。

おわりに

イライラを主訴とする中間～実証の神経症に対して黄連解毒湯が有効であり、漢方療法の有用性と安全性および神経症患者のQOLの向上を示唆するものと考えた。

【参考文献】

- 1) 篠崎徹: イライラを主訴とする神経症30例に対する抑肝散加陳皮半夏の効果, 漢方診療, 18 (2): 42-44, 1999
- 2) 木下徳久、神庭重信: 精神科領域と漢方 -抑うつ・不安と漢方, 漢方と最新治療, 1 (2): 147-151, 1992
- 3) 高山宏世: 三考塾叢刊 腹証図解 漢方常用処方解説, 泰普堂, 1997